

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 4月16日更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 36,500~40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 37,000~39,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500~16,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000~155.150 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578~108.350

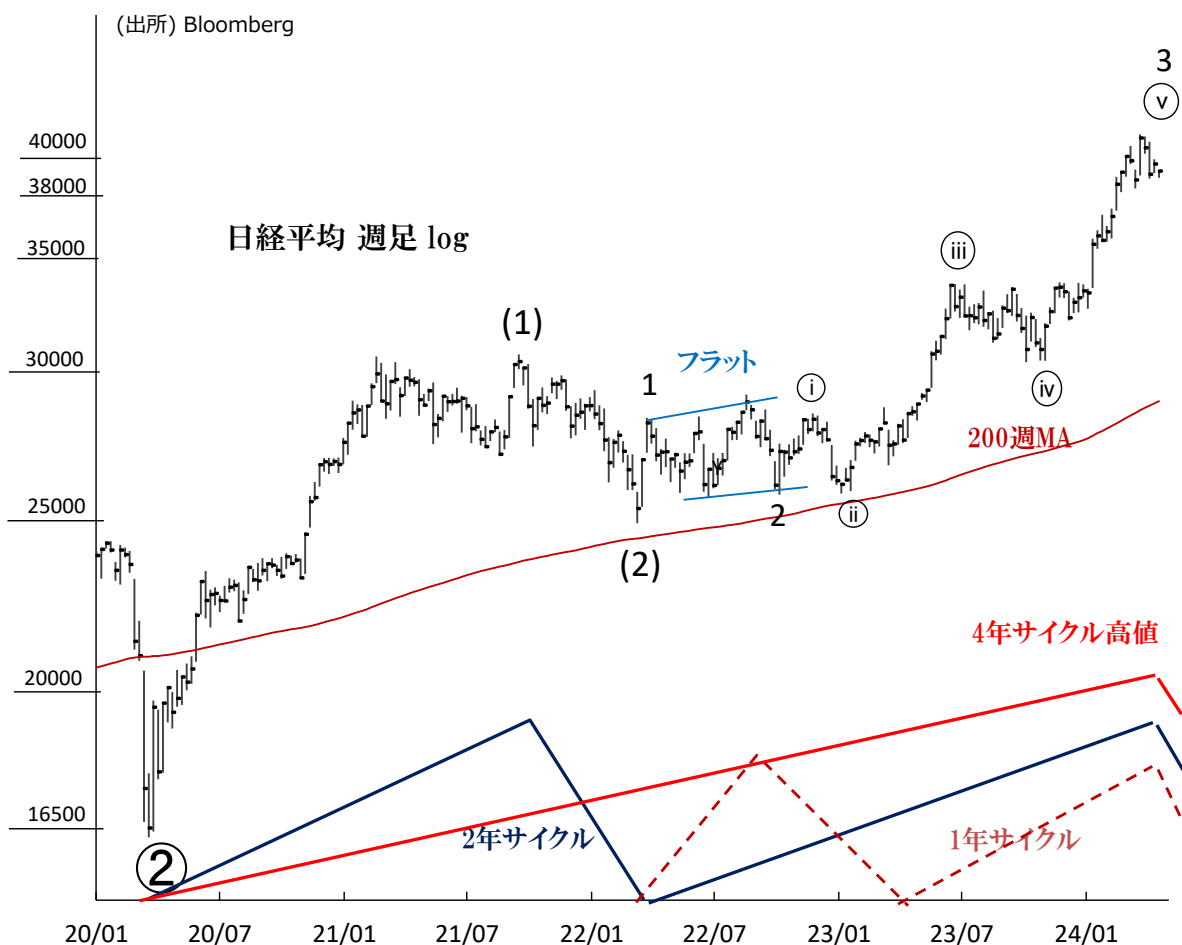
エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。



【週足・エリオット波動分析】

24,681 円(22/3/9 安値)以来、③-(3)波による上昇トレンドが進行中とみられます。この「サード・オブ・サード」による大ラリーが終わるのは、おそらく 2025 年以降のことでしょう。

25,621 円(22/10/3 安値)からは(3)-3 波による上昇トレンド。この第 3 波の副次波(マル i~マル v)中マル v 波が、30,538 円(23/10/23 安値)からの上昇に相当します。

マル v 波は 41,087 円(3/22 高値)を以て終了し—それと共に(3)-3 波も終了し—(3)-4 波による調整局面が始まった可能性があります。

(3)-2 波は、およそ半年間の「フラット」でした。「オルタネーション(交互)」により、3 月高値からの (3)-4 波は、おそらく「ジグザグ」か「トライアングル」になるでしょう。

その下値レンジとして今のところ筆者は、3 万 7000 円~3 万 5500 円を有力視しています。



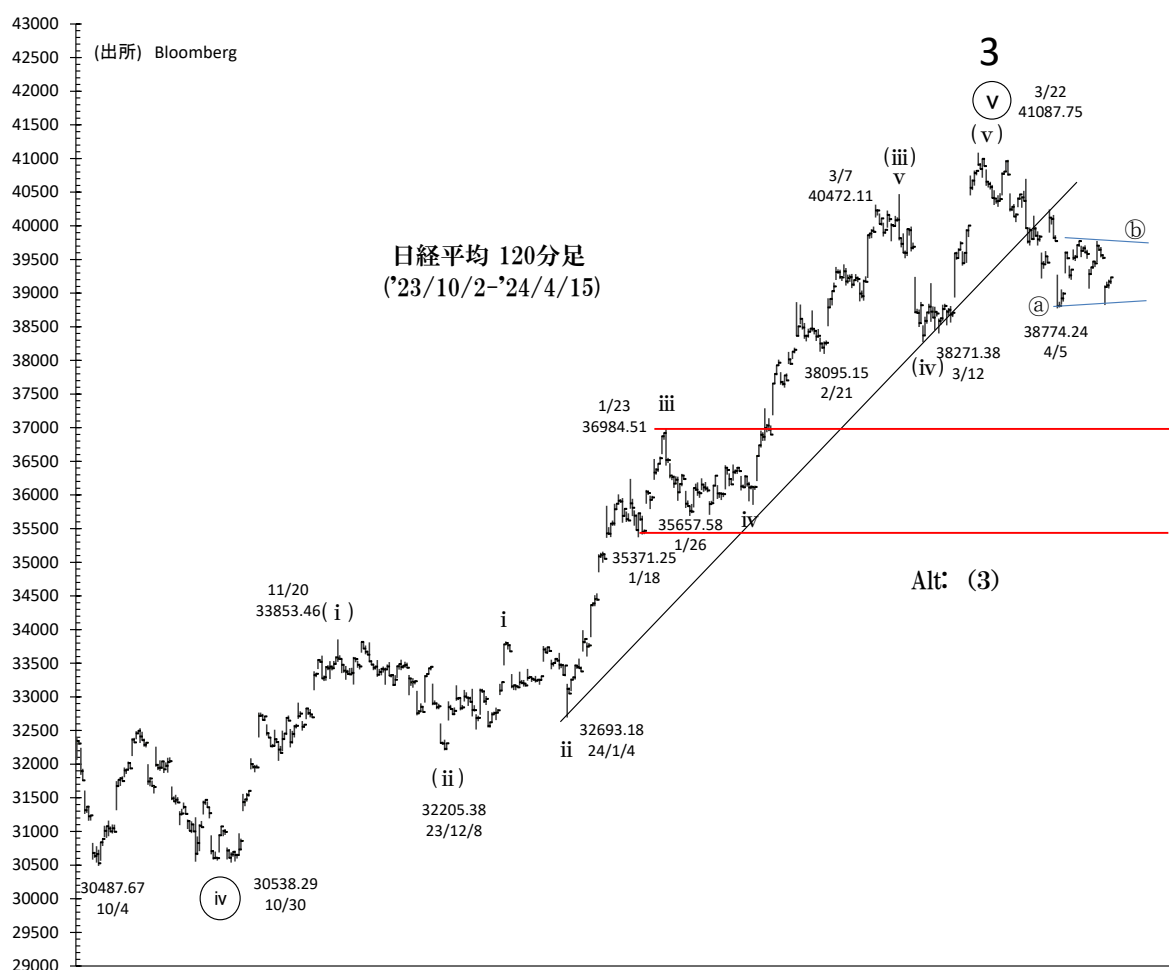
【日経平均 日足・エリオット波動分析】

MACD は今年 3 月 8 日に最初の売りシグナルを、同 28 日に二度目の売りシグナルを発しました。日経平均が最高値(41,087 円)を付けたのは 3 月 22 日ですから、MACD の二度目の売り転換は、「弱気ダイバージェンス」を伴う強い弱気シグナルでした。

23 年 10 月安値(30,358 円)以来、第 3 波中マル v 波による上昇が続いてきましたが、それは 41,087 円を以て終わったとみられます。

毎回ではありませんが、相場は太陽運行上の節目(夏至、秋分、冬至、春分など)で転機を迎えることがあります。41,087 円という高値は「春分の日」(3 月 20 日)付近で付けた、重要な転換点だったかもしれません。

日経平均は第 4 波による調整局面が進行中と思われます。



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

41,087 円(3/22 高値)から第 4 波調整に入った、という前提に立ち、今後のサポートレベルを以下に列挙してみましょう。

[38,598 円]…マル v 波の上昇に対する 23.6%押し水準

[38,271 円]…3 月 12 日安値であり、昨年 10 月 30 日安値(30,538 円)からのマル v 波における、レツサー・ディグリー(iv)波安値です。ただ、第 4 波の下値にしては浅すぎる印象です。

[37,057 円]…マル v 波の上昇に対する 38.2%戻り水準

[36,978 円]…高値から 10%下げ(ザラバベース)

[36,984 円-35,657 円]…第(iii)波のレツサー・ディグリー iv 波領域

[35,813 円]…マル v 波上昇の半値(50%)押し水準

[35,371 円]…1 月 18 日安値

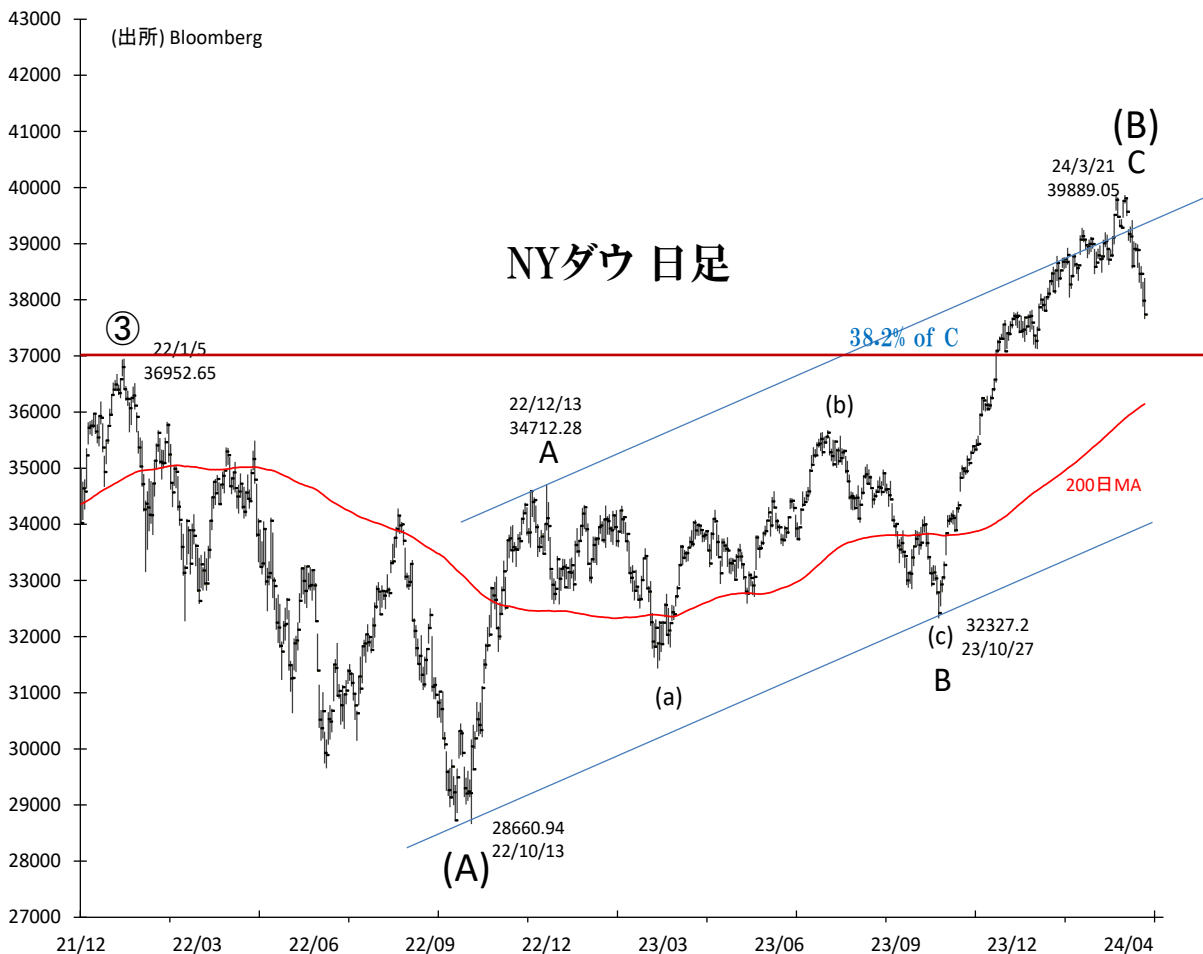
[34,924 円]…高値から 15%下げ

[32,870 円]…高値から 20%下げ

以上のように、重要なサポートレベルが 3 万 7000 円から 3 万 5500 円に重複していることがわかります。それは第 4 波の下値メドに相応しいでしょう。

【4 月 15 日 15:08 更新】

NYダウ



【NYダウ日足・エリオット波動分析】

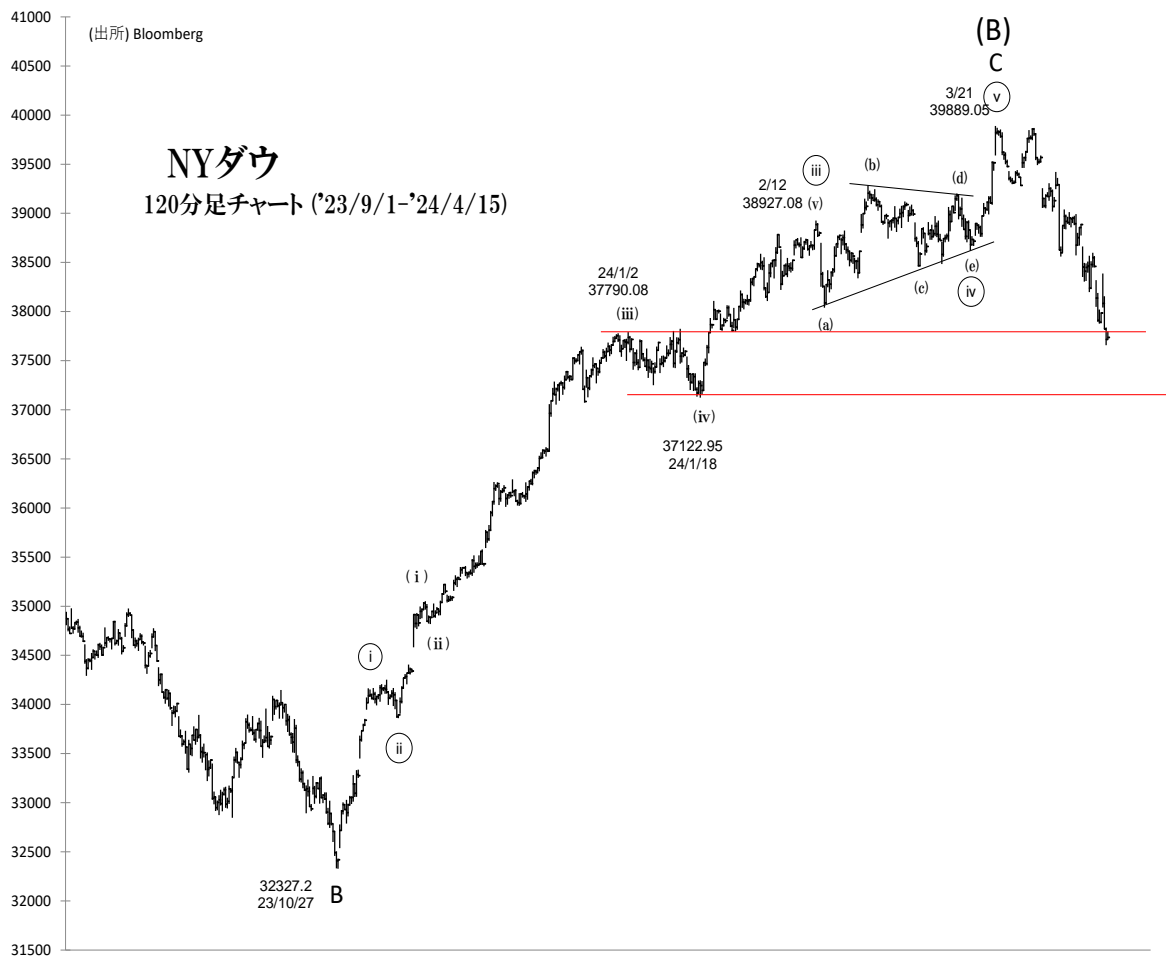
NYダウは22年1月高値(36,952ドル)から、プライマリー級④波が展開中とみています。④波は[エクspanディット・フラット]、[ランニング・フラット]など、複雑なパターンを形成する可能性が高いでしょう。

22年10月安値(28,660ドル)を起点とする上昇は、④波中(B)波による『戻りラリー』に位置付けられます。(B)波はA(↗)-B(↘)-C(↗)の3つの波で構成されます。

23年10月安値(32,327ドル)から5カ月間にわたる(B)-C波によるラリーは、3月高値(39,889ドル)で終わり—日経平均同様に春分の日付近で付けています—(C)波による下落トレンドが始まった可能性があります。

(C)波は5つの波で構成され、(A)波(22年1月高値・36,952ドル⇒22年10月安値・28,660ドル)の22.44%下落に匹敵するか、あるいはそれ以上の大きな下落スケールになるでしょう。例えば[エクspanディット・フラット]の場合だと、NYダウは先方で22年10月安値(28,660ドル)を下回るでしょう。

当面のサポートレベルとしては3万7000ドル処が強そうです。そこには[36,952ドル](22年1月高値)と[37,000ドル](23年10月からの上昇の38.2%押し)が重なっています。



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの(B)-C 波による上昇(5 波構成)は、39,889ドル(3/21 高値)で終了し、(C)波による調整局面が始まった可能性があります。

4 月 15 日に NY ダウは一時 37,657ドルまで下げました。上昇 C 波レッサー・ディグリー(iv) 波領域 [37,790ドル-37,122ドル]に、まずは入りました。

このレンジの下限近くには、先に書いたチャート節目の 3 万 7000ドル処が控えており、当面の強いサポートレベルとみられます。

【4 月 16 日 9:55 更新】

ナスダック



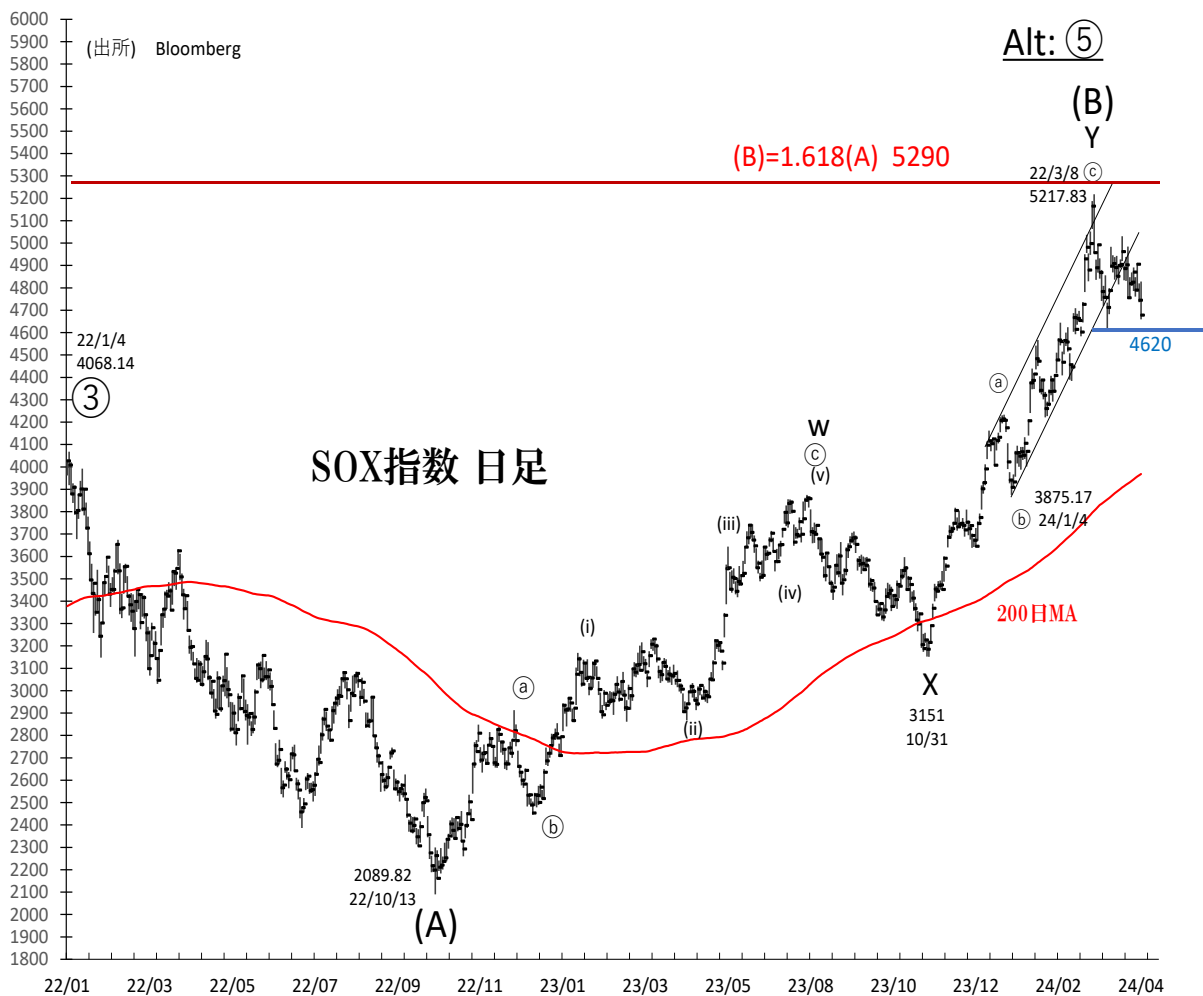
【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

21年11月高値からは、プライマリー級第④波に位置付けられます。この第④波の全体像は、[トライアングル]や[フラット]など保ち合い相場が想定されます。

22年10月安値から④-(B)波による上昇は、16,538(3/21 高値)を以て完了し、④-(C)波による下落トレンドが始まった可能性があります。そうであれば、この先ナスダックは [12,000-10,000]へ向けた調整となりそうです。

4月15日の安値 15,863 は、注目節目の 15,925(3/15 安値)を下回るものでした。この動きにより、[エンディング・ダイアゴナル]からの下放れ開始の可能性が高まりました。

ナスダックは速やかに、15,158(ダイアゴナル始点)まで下げる可能性があります。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)-エリオット波動分析】

22年1月高値(4068)以来のパターンは[エキスパンディッド・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[エキスパンディッド・フラット]なら、来る(C)波の下落により、SOX 指数は22年10月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

[ランニング・フラット]だと、(C)波の下落によっても22年10月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

引き続き4620(3/19 安値)の去就が注目されます※。4620を下回る動きが生じた場合、それはSOX指数が5217(3/8)を以て天井を付け、(C)波の調整に入ったとの見方を強めます。

※4月15日には一時4658まで下げています。

(オルタナティブ・カウント)

22年10月安値(2089)からはプライマリー第⑤波であり、23年10月安値からの上昇は「⑤波-5波」に相当します。⑤波に続いて起きるサイクル級の調整局面は、2027-28年まで続くと思われます。

【4月16日 10:21 更新】

米ドル/円



2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安⊗波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。直近は34年ぶりドル高・円安となっていますが、それも基本的には、レンジ相場内の値動きの一環です。

【月足・エリオット波動分析】

22年10月以来の『円高局面』は、長期円安トレンドにおける中間波・⊗波に位置付けられます。この⊗波は2028年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するでしょう。

なお、ドル/円天井(B波終了)のタイミングは今年(24年4月)かもしれません。

およそ8年間隔でドル/円高値が巡る『8年サイクル』を振り返ると、過去もっとも長いサイクル期間は106カ月(98年8月～07年6月)でした。前回サイクル高値(15年6月)から106カ月が経過する時点が、24年4月となります。

直近では90年6月以来34年ぶりに1ドル=154円台を回復しています。ドル/円は8年サイクル高値をいつ付けてもおおしくありません。

※ドル/円の見通しについては、4月4日発行のマンスリー・フォーカスも併せてお読みください。



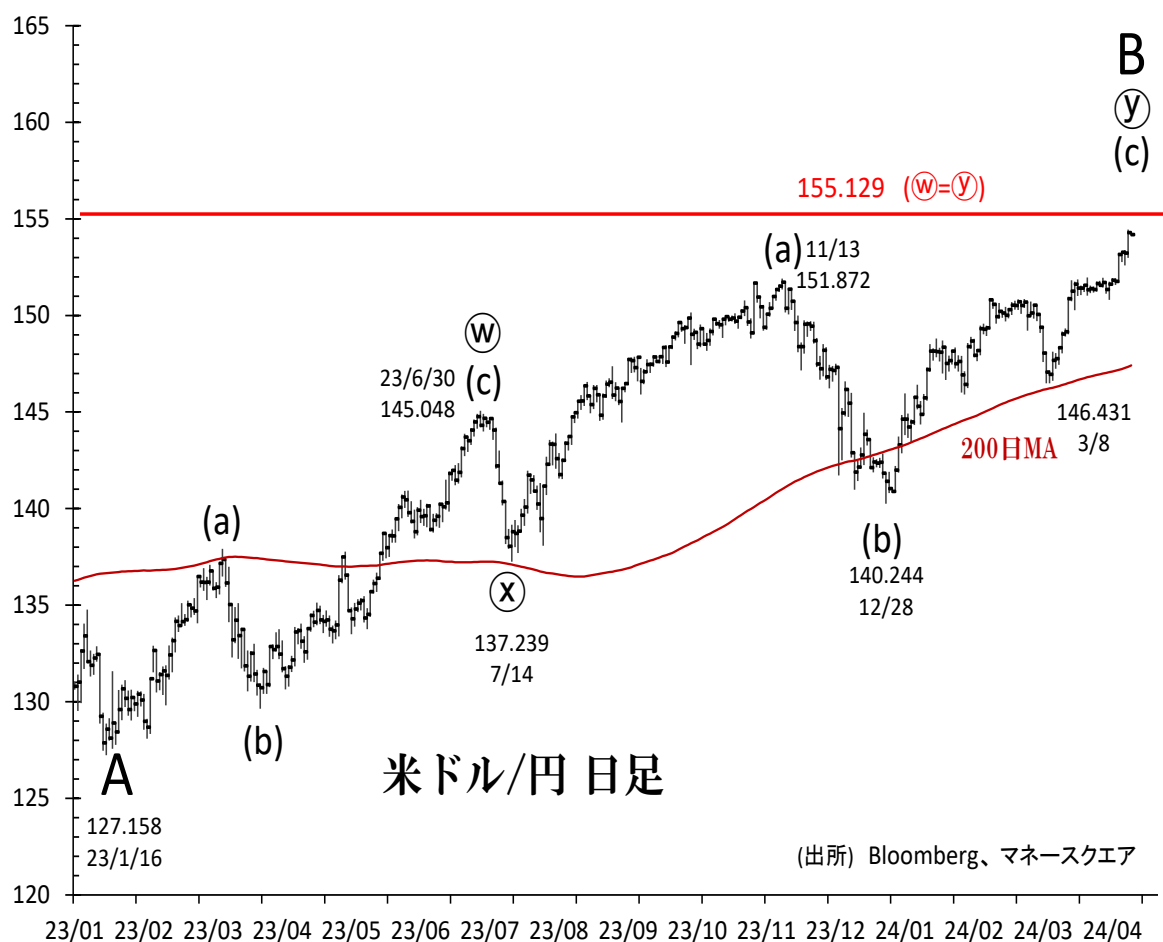
【週足・エリオット波動分析】

23年1月(127.158円)以来のドル/円の波動構成は、波の重なりが多いチョッピー(choppy)なものです。これはつまり、23年1月からのドル/円上昇は推進波(5波構成)ではなく、修正波としてのB波であることを意味するものです。

「4月に153円-155円を打診する」という見通しは既に達成され、B波はいつ「不規則天井(イレギュラー・トップ)」を付けてもおかしくありません。

B波が終わると次はC波によるドル/円下落が予想されます。C波によりドル/円は135円-130円を目指す、とみられます。

今月中に1ドル=155円、という可能性をみながらも、ここからは円安から円高への基調転換に備えたいところです。



【日足・エリオット波動分析】

127.158 円(23/1/16)からの B 波は[不規則天井(イレギュラートップ)]を付けにいくところです。不規則天井は「強気のパナ(Bull trap pattern)」として知られ、天井を付けてまもなく、逆方向への急激な反動を伴うことが珍しくありません。

今回のドル/円 34 年ぶり高値は「強気のパナ」となり、遠からずドル/円は急落局面を迎える可能性があります。

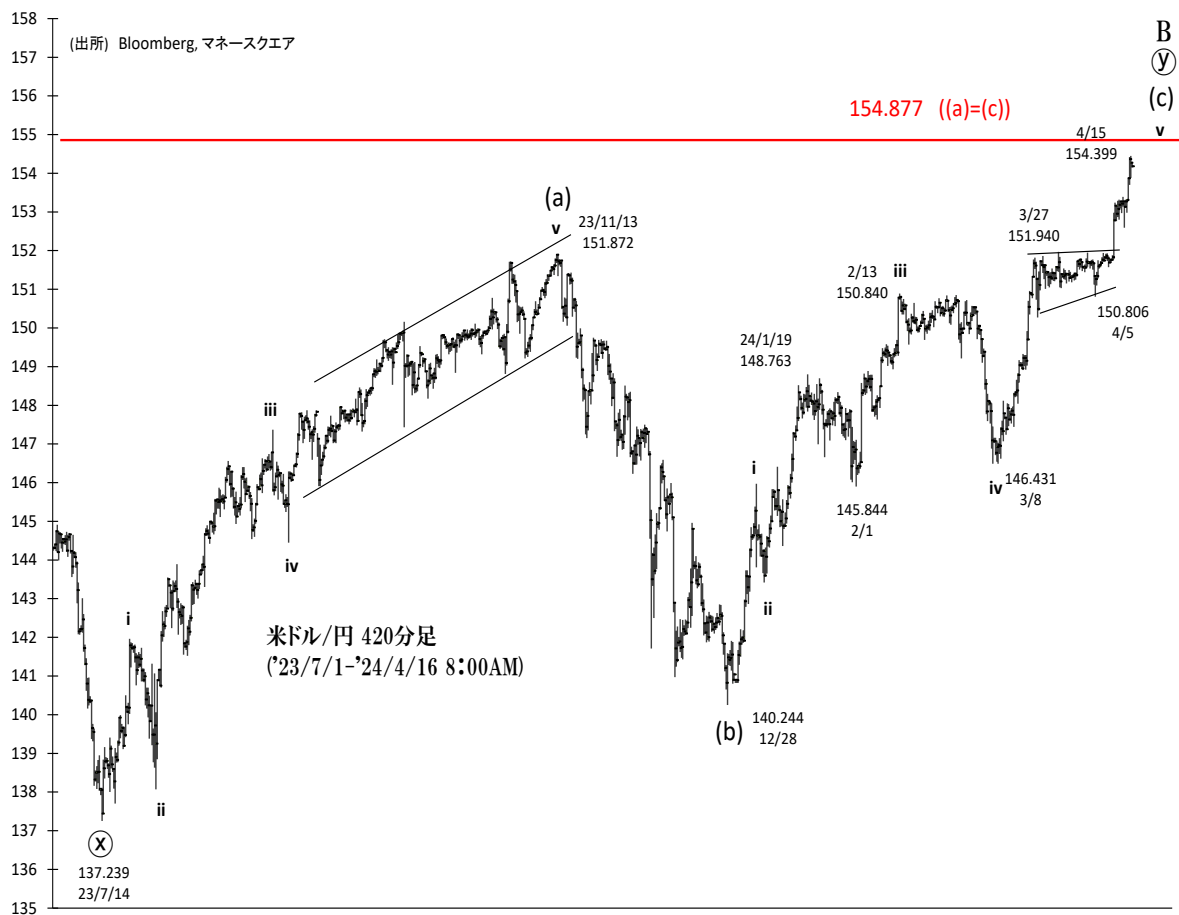
上述したように、B 波の波動構成はチョッピーなものであり、パターンは[ダブル・ジグザグ]とみられます。

ドル/円はいつ高値を付けてもおかしくありませんが、特に 155 円処はチャート節目として要注目です。

[154.877 円]…137.239 円(23/7/14)からの N 計算値

[155.129 円]…二つのジグザグ (W波とY波) が等しく上がる N 計算値

※4 月 15 日には一時 154.399 円を付けています。



【時間足・エリオット波動分析】

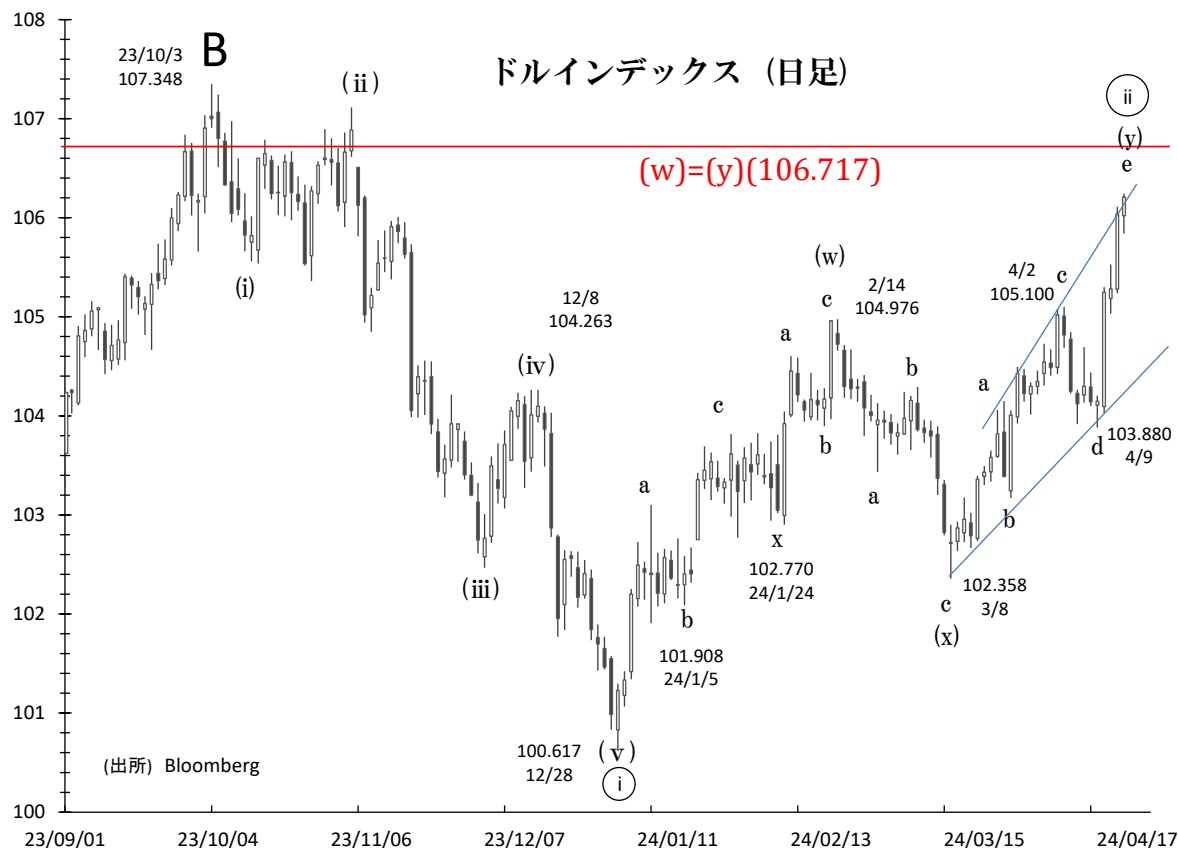
137.239 円(23/7/14)から二番目のジグザグ(a)-(b)-(c)が進行中であり、140.244 円(12/28)からは(c)波による上昇とみられます。この(c)波を構成する5つの波のうち第v波が、146.431 円(3/8)から展開中でしょう。

直近でドル/円は 154 円台を回復し、155 円処のターゲットに肉薄しています。目先的に **152.800 円処を維持する限り、ドル/円の上昇基調も続くと思われ**ます。

その反面、**152.800 円処を下回ると、それはドル/円ピークの最初の示唆**になるでしょう。

【4月16日 9:34 更新】

ドルインデックス (ドル指数)



【日足・エリオット波動分析】

直近でドル指数は、23年11月上旬以来の水準に上昇し、チャート節目[106.717]が視野に入っています。
[106.717]…昨年12月安値(100.617)から今年2月高値(104.976)までの(w)波と、今年3月安値(102.358)からの(y)波が、等しく上がる水準

筆者にとって3月以降のドル高はやや意外感があり、従前の波動カウントの他に、オプションを用意する必要があるようです。それらを以下にあげておきます。

(波動カウント1)

昨年12月安値からはC-マルii波によるリバウンドです。ドル高は近々終わり、その後はマルiii波によるドル安が到来するでしょう。そしてマルiii波によって、昨年12月安値(100.617)も7月安値(99.578)も、破られることでしょう。

(波動カウント2)

最初のオプションは、昨年7月安値以来のB波が[トライアングル](㉓~㉔)を形成している、というものです。現在はB波中㉔波のドル高局面に相当し、まもなく㉔波のドル安に移ります。

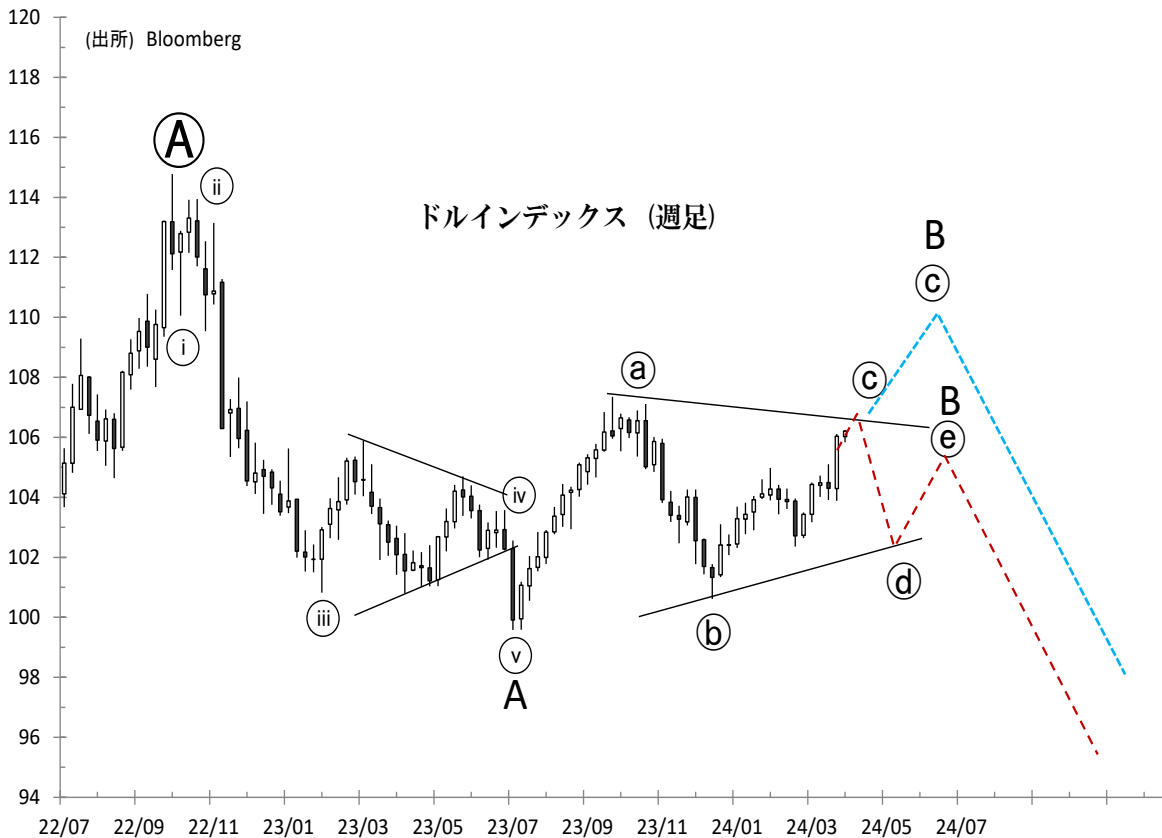
なおこれらの波動カウントは、昨年10月高値(107.348)を上回らないことが前提です。

107.348 を上回るケースでは、次のオプションが採用されます。

(波動カウント3)

昨年7月安値以来のB波が[ジグザグ](a-b-c)で展開中です。昨年12月安値からは©波によるドル高局面です。この波動カウントが正しい場合、ドル安C波開始は先送りされます。

【4月16日 9:21 更新】



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
